

NEWS LETTER

一般社団法人 日本看護研究学会 近畿・北陸地方会

- 目次
1. 2021 年度の主な事業
 2. 世話人代表のご挨拶
 3. 第 35 回近畿・北陸地方会学術集会のお知らせ
 4. 看護研究セミナーの報告

1. 2021 年度の主な事業

1. 第 33 回看護研究セミナー

日時：2021 年 12 月 19 日(日) 13:30~15:30 (ZOOM)
プログラム：「アクセプトされる論文力」の強化の秘訣

セミナーの報告は 3-4 ページを
ご参照ください。

2. 第 35 回 近畿・北陸地方会学術集会

日時：2022年 3 月 14 日(月)-3 月 27 日(日)
テーマ：今だからこそ改めて考える健康長寿

事前参加申込が開始されています。
詳細は 2 ページをご覧ください!!

2. 世話人代表のご挨拶

年の瀬になりますと、いつ大掃除をしようかと考えたのは随分前のこと。おせちの用意も年末年始に商店が一斉休業となるため、お正月のご馳走に加えて保存食の意味合いがありました。煤そのものが壁や柱につくことはなくなったものの、毎年12月20日に行われる京都、東西両本願寺での「お煤払い」のニュースを見ると、お正月の神様に来てもらえるよう少しは片付けをしようかと考え、またスーパー等のチラシを見ると、数の子、ごまめ、黒豆などを買い揃えることとなります。

さて、次期世話人代表選挙が選挙管理委員会により、11月20日から11月30日までを投票期間として実施されました。これまでより早い時期の実施となりましたのは、選挙実施に係る業務を前回より外部委託としたため、その支払い等を会計年度内に処理する必要があったことです。

お蔭をもちまして、最多得票数の方に結果をご連絡し、新世話人代表をお引き受けいただくことに関して同意を得ております。ついては2021年度地方会総会で、この度の選挙結果を報告させていただき、総会の承認を得て新世話人代表が決定することとなります。

第35回近畿・北陸地方会学術集会は、同志社女子大学の岡山寧子先生を集会長として、2022年3月開催にむけて着々と準備を進めて頂いているところではありますが、総会の対面開催は見合わせ、2022年2月頃に前同様、Web上での実施を計画しております。

どうぞ引き続き近畿・北陸地方会活動に、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

2021年12月吉日 井上智子

3. 第35回近畿・北陸地方会学術集会のお知らせ

日時：2022年3月14日(月)～3月27日(日) オンデマンド
主催：同志社女子大学
学術集会長：岡山 寧子(同志社女子大学/大学院看護学研究科)

テーマ：今だからこそ改めて考える健康長寿

【会長講演】「健康的な暮らし方支援へのマイルストーン」

【教育講演】「介護予防と健康長寿」

【教育講演】「口腔機能からみた健康長寿」

【一般演題】抄録発表(誌上発表)



ご参加を希望の方は、氏名(カタカナ)、学会員の方は会員番号、所属、抄録集発送先を明記の上、jsnr2022kyoto@gmail.com までメールにてご連絡下さい。参加費の振込先等については、ホームページをご確認ください。

多くのご参加をお待ちしております。

新型コロナウイルス感染症拡大という健康危機の中で、保健医療福祉などの現場で奮闘されている方々をはじめ、人々の健康支援に尽力されている全ての方々に、心より敬意と感謝を申し上げたいと存じます。そして、本学術集会が開催される頃には、少しでも落ち着いた状況になっていることを願っております。

本学術集会のメインテーマは「今だからこそ改めて考える健康長寿」といたしました。世界中に新型コロナウイルス感染症が拡大してから、私たちの生活も大きく変わってきました。この状況は、人々の健康をはじめ、安心して安全な暮らしまで大きく揺さぶり続けていることを実感します。日々、不安が尽きることはありません。特に、高齢者や基礎疾患のある方は、感染への不安のみならず感染から自身を守るために閉じこもりがちになり、生活不活発による健康への影響が危惧され、様々な方策が進められているところです。そこで、今一度、この状況下での地域の健康課題や健康支援を必要とする人々のニーズに対応できる看護について、健康そして健康長寿をしっかりと見据えながら、共に考える機会を持ちたいと考えました。多くの方にご参加いただき、有意義な学術集会になりますようお願いいたします。

日本看護研究学会第35回近畿・北陸地方会学術集会 集会長 岡山寧子



4. 看護研究セミナーの報告

第 33 回看護研究セミナーでは、神戸大学大学院保健学研究科の法橋尚宏先生を講師にお迎えし、『アクセプトされる“論文力”の強化の秘訣』についてお話いただきました。第 28 回のセミナー（2018 年）でお話いただいた『著名誌エディターからみたアクセプトされる“論文力”の強化の秘訣』の第 2 弾となります。法橋先生に講演内容の要旨をご執筆頂きましたので、紹介をいたします。

日本看護研究学会近畿・北陸地方会第 33 回看護研究セミナー 『アクセプトされる“論文力”の強化の秘訣』

神戸大学大学院保健学研究科家族看護学分野（家族支援 CNS コース）
教授 法橋尚宏 氏

2021 年 12 月 19 日、ヴァーチャル会場（Zoom ミーティング）において、日本看護研究学会近畿・北陸地方会第 33 回看護研究セミナーの講師を担当した。2018 年に私が担当したセミナーの概要は、『日本看護研究学会近畿・北陸地方会 News Letter』の第 22 号を参照してほしい。私は、日本看護研究学会において、『日本看護研究学会雑誌』の編集委員長（2014 年から 2018 年、2020 年から現在）、『Journal of International Nursing Research』の編集委員長（2020 年から現在）を仰せつかっている。今回は、国内外のジャーナルの編集委員や査読委員などの経験を踏まえ、論文力（論文を書く力）を強化するための秘訣を紹介した。

編集委員長は、編集・査読における最終的な意思決定を行い、ジャーナルの高い質を保証する役割を担うと考える。私の編集指針としては、1) 減点主義ではなく、加点主義で論文原稿の評価を行う、2) 論文に対する責任は著者が負う、3) 論文の価値は最終的に読者が決める、4) 影響力が大きい重要な研究結果はできるだけ早く共有する、5) 研究実施後 5 年を経過している論文原稿は原則受理しないなどをあげている。

論文力は、旺盛な研究意欲と高い研究生産性の実現が基盤になる。“100 回の学会発表は、1 本の論文に如かず”といえ、学会発表や紀要は業績ではない。“Publish or Perish (PoP)”の気構えをもち、研究者も実践者も論文をパブリッシュすることでエビデンスを創出し、直接的または間接的に社会に還元し、すべてのひとの幸福を実現しなければならない。例えば、研究者は、優れた研究成果を生み出し、評価に耐えうる論文をパブリッシュすることが責務である。実践者は、論文から実践の有用性を裏付けるためのエビデンスを得て、効果のない実践や有害な実践を排除する責任がある。看護学研究は、看護学の発展に貢献し、EBN (Evidence-Based Nursing) によって実践の質を高める。

論文投稿からアクセプトに至る道のりは険しく、必死で論文執筆だけに没頭するという非常識さも必要になるかも知れない。研究はひとりではできないので、研究仲間をつくることで、研究組織（研究代表者、研究分担者、研究協力者など）を動かすようにする。“師に仰ぐならノーベル賞級のひとの下につけ”といわれるように、メンターや研究環境も重要である。

論文執筆にあたっては、論文の論旨展開と構成を考える。論文構成は、IMRAD (Introduction, Methods, Results And Discussion) という形式が標準化されている。Introduction は“何を研究したのか？ なぜ、それを研究したのか？”を書く部分であり、研究の独創性を明確に説明し、先行研究を網羅して何がわかっている、何がわかっていないのかを簡潔に記述する。Methods は“何を具体的にしたのか？ なぜ、結果が信頼できるのか？”を書く部分であり、再現性が確保できるように具体的に何をしたのかを記述する。Results は“何がわかったのか？”を書く部分であり、何を発見したかを説明し、研究目的に対応した結果を記述する。Discussion は“結果は何を意味するのか？ 何ができるようになったのか？”を書く部分であり、科学知識の進歩にどのように寄与するかを説明し、臨床への応用、研究の限界を述べる。なお、Introduction と Results で書いたことは、繰り返して Discussion では書かない。さらに、Conclusion は“その研究から何を学んだのか？”を書く部分であり、研究で検証・吟味したことを踏まえ、提起した問題に答えを示す。Conclusion は、論文の要約ではないので、Abstract と内容が重複しないようにする。このように、IMRAD 形式は科学的発見の過程を順にたどり、自分の考えを読者に効果的に伝え、読者の理解度を向上させることができる。ピアレビューにおいて、論文の価値を理解してもらうためには、Abstract, Introduction, Conclusion が重要である。何が問題で、何を行って、どのようなインパクトのある結果が得られたかを明確にするために論文を組み立て、時系列的に展開される物語のように執筆する。論文は物語なのである。

- ◆ 本地方会に関するお問い合わせ・ご連絡は下記の事務局までお願いします。

日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 事務局

同志社女子大学 看護学部看護学科(木村静・葉山)

TEL: 0774-65-8836 (木村静)

e-mail: skimura@dwc.doshisha.ac.jp (木村静)

0774-65-8838 (葉山)

yhayama@dwc.doshisha.ac.jp (葉山)

- ◆ ニュースレターでは、本地方会の活動に関する情報をお届けいたします。
詳細な情報をお知りになりたい場合は、学会ホームページも合わせてご活用ください。
<https://www.jsnr.or.jp/district/kinki-hokuriku/>